

科目名	解剖学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室/山口大学医学部解剖学実習室	
授業概要	人体の構造について、2年生までに学んだ知識、理解に基づき、実際に人体の内部がどのような構造になっているのかを具体的に学ぶ。 ご遺体を提供された方々のご遺志に対する敬意を払うとともに、病気に苦しむ患者の気持ちを汲み取れるような医療従事者の育成を目指す。									
一般目標	・各組織・器官の立体的な位置関係を実習を通して理解できる。 ・実習した位置関係を体表解剖にフィードバックできる。									
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コア アトラス (医学書院) PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 (南江堂) 参考書:解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)、生体のしくみ (VISUALEARN)									

到達目標		
知識(認知領域) ・人体(内臓、脳・神経、筋・関節)の基本構造について理解し、その機能を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・グループ実習において協調性・自主性を発揮し、チームとして目標(人体構造の観察)を達成する。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・自らのご遺志で献体してくださった方、及びご遺族への敬意と尊厳を忘れない行動がとれる。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖学実習オリエンテーション	肉眼解剖学実習の目的と意義について説明できる。 生命の尊厳、献体の意義について説明できる。
2	内臓:講義①胸部内臓	胸部内臓器官の構造について、図を用いて説明できる。
3	内臓:講義②腹部内臓	腹部内臓器官の構造について、図を用いて説明できる。
4	内臓:人体解剖学見学実習①	山口大学医学部の肉眼解剖学実習に参加する。 胸部および腹部内臓器官を構造観察し、形態・機能の概要が説明できる。
5	内臓:人体解剖学見学実習②	山口大学医学部の肉眼解剖学実習に参加する。 胸部および腹部内臓器官を構造観察し、形態・機能の概要が説明できる。
6	筋、関節解剖学:講義①上肢	上肢の筋、関節、神経の走行について、図表を用いて位置関係を確認することができる。
7	筋、関節解剖学:講義②下肢	下肢の筋、関節、神経の走行について、図表を用いて位置関係を確認することができる。
8	筋、関節解剖学:講義③まとめ	体表解剖において具体的な筋の位置を確認し、見学実習で確認すべき項目を列挙することができる。
9	筋、関節解剖学:人体解剖学見学実習①	山口大学医学部解剖学教室での人体解剖に参加し、筋や神経の走行を観察し、テキストと照らし合わせ確認することができる。
10	筋、関節解剖学:人体解剖学見学実習②	山口大学医学部解剖学教室での人体解剖に参加し、筋や神経の走行を観察し、テキストと照らし合わせ確認することができる。
11	脳:講義①	大脳・間脳・脳室の構造および機能について説明できる。
12	脳:講義②	伝導路・脳動脈の構造および機能について説明できる。
13	脳:講義③	脳幹・小脳の構造および機能について説明できる。
14	脳:人体解剖学見学実習①	山口大学医学部解剖学教室での人体解剖に参加し、脳の構造を観察し、部位や機能について説明できる。
15	脳:人体解剖学見学実習②	山口大学医学部解剖学教室での人体解剖に参加し、脳の構造を観察し、部位や機能について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			30	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として臨床経験あり、身体構造機能について精通している	

科目名	発達学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	203・204教室
授業概要	発達の過程を理解し、障害の与える影響を考えることが出来る。									
一般目標	発達の過程を理解し障害による影響を考えることが出来る。									
テキスト 参考書等	テキスト:標準理学療法学・作業療法学[専門基礎分野]人間発達学第3版(医学書院) 参考書:人間発達学(中外医学社)、発達を学ぶー人間発達レクチャーー(協同医書出版社)、発達障害作業療法学(MEDICALVIEW)、感覚統合とその実践(協同医書出版)、発達性協調運動障害(金子書房)									

到達目標		
知識(認知領域) 発達の過程が理解出来、疾患の概要が説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	人間発達の過程①	発達理論、胎芽期から幼児期までの流れを理解できる。
2	人間発達の過程②	幼児期から青年期までの流れを理解できる。
3	人間発達の過程③	青年期から高齢期までの流れを理解できる。
4	運動発達(背臥位・腹臥位・座位)	背臥位、腹臥位、座位の発達過程と意義を理解できる。
5	運動発達(立位・歩行)	立位、歩行の発達過程と意義を理解できる。
6	運動と反射	反射の消失、統合と運動発達のつながりを理解できる。
7	手の運動と発達	手の機能と発達を理解できる。
8	空間知覚とボディイメージ	視覚機能と空間知覚、ボディイメージの発達を理解できる。
9	聴覚・言語機能と発達	聴覚と言語機能の発達を理解できる。
10	感覚とは	感覚統合の考え方と感覚の与える影響を理解できる。
11	脳性麻痺(CP)について	発症原因、病態、リスク、予後を理解できる。
12	その他の疾患について	二分脊椎、筋ジストロフィー、ダウン症等の疾患を理解できる。
13	発達障害について	ASD(自閉スペクトラム症)の症状を理解できる。
14	発達障害について	ADHD(注意欠如・多動症)の症状を理解できる。
15	発達障害について	DCD(発達性協調運動症)の症状を理解できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	小児を中心に作業療法を行った経験あり。	

科目名	一般臨床医学Ⅰ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室	
授業概要	病理学、薬理学、栄養学は医学や病態を理解する上での基礎となっている。病理学は病気の原因とその成り立ちを追求することにより病気の本態を理解する学問であり、薬理学は病気になる原因をもとに薬の生体への作用を理解する学問である。また、栄養学は食品や栄養素の生体の中での働きを理解する学問である。理学療法学・作業療法学を学ぶ学生においては、これら病理学、薬理学、栄養学の基本的概念を理解し、それらの知識を常に念頭において医療が出来るようにする。。									
一般目標	・病理学、薬理学、栄養学の意義や医学での位置づけを理解する。 ・病理学、薬理学、栄養学に関する医学用語、基本事項、病態に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	標準理学療法学・作業療法学 病理学（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域) ・基本的な病気の種類、原因、経過を説明できる。 ・病変の特徴と全身に及ぼす影響を説明できる。 ・何故そのようなことが起こるのか説明できる。 ・薬に関する基本事項が説明できる。 ・病態への薬の作用、副作用を説明できる。 ・生体のエネルギー代謝が説明できる。 ・栄養と運動やリハビリテーションとの関連を説明できる。 ・病態の栄養管理について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	病理学の概要・病因論・退行性病変	・病理学の概要を理解し、説明できる。 ・病気の成り立ちを考える際の基本概念である病因論について理解し、病因にはどのような種類があり、どのような組み合わせで病気が発症するかについて説明できる。 ・退行性病変の種類と関連する疾患について説明できる。
2	代謝異常・進行性病変	代謝異常および進行性病変の種類と関連する疾患について説明できる。
3	循環障害 1	・循環障害にはどのような種類のものがあるか説明できる。 ・循環障害が関連する疾患とその原因について説明できる。
4	循環障害2	・循環障害にはどのような種類のものがあるか説明できる。 ・循環障害が関連する疾患とその原因について説明できる。
5	免疫・アレルギー	・免疫の種類とその成り立ちについて説明できる。 ・アレルギーの種類とその成り立ち、関連する疾患について説明できる。
6	腫瘍 1	・腫瘍の種類と発生について説明できる。 ・腫瘍が発生した場合に人体に及ぼす影響について説明できる。
7	腫瘍 2・放射線障害	・腫瘍の治療や疫学について説明できる。 ・放射線障害が人体に及ぼす影響や、関連する疾患について説明できる。
8	老化・先天異常	・老化が起こる原因や関連する疾患について説明できる。 ・先天異常の種類や関連する疾患について説明できる。
9	薬と薬物治療	・薬に関する基本事項について説明できる。 ・薬物動態、相互作用、耐性・依存性について説明できる。
10	循環器系作用薬	・高血圧に用いる薬について説明できる。 ・狭心症治療薬について説明できる。
11	中枢神経系作用薬	・統合失調症に用いる薬について説明できる。 ・うつ病に用いる薬について説明できる。 ・不安症に用いる薬について説明できる。 ・パーキンソン病治療薬について説明できる。
12	その他の薬物	・癌縮治療薬について説明できる。 ・抗血栓薬について説明できる。 ・抗炎症薬について説明できる。
13	栄養と栄養素	栄養という営みの概略を説明できる。栄養素とは何か及びそのはたらきの概略を説明できる。
14	代謝とエネルギー	代謝とエネルギーの関係を説明できる。
15	栄養、代謝と身体活動	栄養、代謝と身体活動(運動)の関係を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度	○			評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	実務経験紹介		臨床検査技師として約20年間、医療施設等に勤務。		

科目名	一般臨床医学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	臨床実習(評価実習)では検査測定実施に加え関連他部門からの情報やカルテ情報の収集により患者様の全体像をとらえる過程を学習する。そこで本講座では、リハビリテーション医療に携わる者に必要な関連情報(画像や臨床検査値等)の見方や解釈について学ぶ。またリハビリテーション職に必要な救命・予防について理解を深める。								
一般目標	・内科領域に関わる画像や検査の見方や解釈に関する知識を修得する。・中枢神経領域のCT, MRI検査に関する知識を修得する。・骨・関節領域の画像検査(主にMRI)について知識を修得する。・主要な臨床検査について、検査を実施する目的と異常値と関連する病態を理解する知識を修得する。・臓器別に主要な疾患については具体的な病名を示し、診断に必要な検査を判断し、検査学的な異常を評価できる知識を習得する。・救命・予防について理解を深め、知識を修得する。								
テキスト 参考書等	随時、プリントを配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた画像や検査の見方や解釈について説明できる。・授業で解説した臓器別疾患について診断に必要な検査を説明できる。 ・救命・予防について知識を修得できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業時間内に十分な理解が得られなかった場合は自分で知識の取得に努める。 ・授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	内科領域のレントゲン・CT・MRI	内科領域のレントゲン・CT・MRIについて簡潔に説明できる。
2	内科領域のエコー・血管造影	内科領域のエコー・血管造影について簡潔に説明できる。
3	内科領域の内視鏡 まとめ	内科領域の内視鏡について簡潔に説明できる。 内科領域に関わる画像や検査の見方や解釈に関する知識を修得する。
4	頭部画像(CT・MRI等)の見方	頭部画像(CT, MRI)の判読ポイントを説明できる。 断層画像(CT, MRI)で脳解剖や血管解剖について説明できる。
5	代表的な頭部疾患画像の見方	脳梗塞や出血、脳腫瘍など、代表的な疾患の画像(CT, MRI)所見を説明できる。
6	血液学的検査と貧血	血液細胞の形態と機能を説明できる 貧血の検査を解説できる
7	血小板・凝固・線溶機構と病態	血小板・凝固・線溶機構を理解し、出血や血栓に関連する止血機能検査を説明できる
8	免疫・炎症・アレルギー・腫瘍マーカー	免疫機構を理解し、炎症やアレルギーの発症機序と分類を説明できる 自己抗体と自己免疫疾患の関連を説明できる 腫瘍マーカー検査について説明できる
9	救命救急法	救命救急法について理解し実施することができる。
10	救命救急法	救命救急法について理解し実施することができる。
11	予防医学・健康増進	予防医学・健康増進について理解し説明できる。
12	予防医学・健康増進	予防医学・健康増進について理解したうえで実践できる(チャレンジデー)。
13	リスクマネジメント概論	リスクマネジメントについて説明できる。また、各現場におけるリスクマネジメントについてグループ内で討論できる。
14	リスクマネジメント概論	現場におけるリスクマネジメントを理解したうえで実践できる(チャレンジデー)。
15	感染予防	感染予防について理解し実施することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	内科医として10年間、外来、検査を担当	

科目名	運動器障害学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	運動器障害とは、骨・関節・筋肉・腱・靱帯・神経など身体を支えたり動かしたりする組織の障害である。いわゆる整形外科疾患として理学療法・作業療法の対象となる機会も多い。この授業では、代表的な整形外科疾患の病態と治療法の概要について学習する。								
一般目標	・各種整形外科疾患の病態に関する知識を修得する。 ・各種整形外科疾患の治療法の概要について知識を修得する。								
テキスト 参考書等	・リハビリテーションのための整形外科の歩き方(南江堂)								

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・真摯な態度で授業等に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	整形外科総論 整形外科は運動器を扱う科	・整形外科の定義について説明できる。 ・代表的な運動器疾患の特徴について簡潔に説明できる。 ・運動器疾患の分類について説明できる。
2	骨疾患① 骨折を軸に骨疾患を考える	・骨の構造、骨のリモデリング、骨の成長について説明できる。 ・骨折の分類について説明できる。 ・開放骨折、病的骨折、疲労骨折について説明できる。
3	骨疾患② 骨折の治療1	・骨折治療の流れと骨折の保存療法の概要について説明できる。 ・橈骨遠位端骨折の分類と保存療法の概要について説明できる。 ・人名のついた骨折の骨折部位を答えることができる。
4	骨疾患③ 骨折の治療2	・骨折の手術療法の概要について説明できる。 ・骨折の代表的な合併症について説明できる。
5	骨疾患④ 骨折の治療3	・偽関節と骨壊死について説明できる。 ・舟状骨骨折の概要について説明できる。 ・大腿骨近位部骨折の概要と治療原則(リハビリテーション含む)について説明できる。
6	変形性関節症① 総論 変形性膝関節症	・変形性関節症の病態と治療原則について説明できる。 ・変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
7	変形性関節症② 変形性股関節症	・変形性膝関節症の病態と治療の概要について説明できる。
8	関節リウマチ	・関節リウマチの病態と治療の概要について説明できる。
9	靱帯の外傷・疾患	・捻挫・脱臼の病態と治療の概要について説明できる。 ・足・膝関節靱帯損傷の病態と治療の概要について説明できる。 ・半月板損傷の病態と治療の概要について説明できる。
10	腱の外傷・疾患	・アキレス腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。 ・手指屈筋腱損傷の病態と治療の概要について説明できる。 ・肩関節周囲炎・腱板損傷の病態と治療の概要について説明できる。
11	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患①	・末梢神経損傷の一般症状と分類について説明できる。 ・各末梢神経損傷に生じやすい症状と変形について説明できる。 ・絞扼性神経障害の誘発試験について説明できる。
12	末梢神経および脊椎・脊髄の疾患②	・頸椎椎間板ヘルニア・腰椎椎間板ヘルニアの病態・症状について説明できる。 ・腰部脊柱管狭窄症の病態・症状について説明できる。 ・腰椎変性すべり症・腰椎分離すべり症の病態・症状について説明できる。
13	小児整形外科	・骨端症の病態・症状について説明できる。 ・发育性股関節形成不全の病態・症状・治療法について説明できる。 ・筋性斜頸・先天性内反足の病態・症状・治療法について説明できる。
14	スポーツ傷害	・スポーツ傷害の概念について説明できる。
15	まとめ	・確認テストを通して運動器疾患のポイントをまとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として約15年間、病院勤務にて整形外科治療に携わる		

科目名	内部障害学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室	
授業概要	理学療法・作業療法を行う患者の多くは何らかの疾患を抱えており、その疾患の概要を知らなければ、正しく安全な理学療法・作業療法を行うことはできない。本授業では、内科の主な疾患の病態、症候、さらには検査、診断、治療などに関して学び、理学療法・作業療法を行う上で必要な基礎知識を身につける。									
一般目標	・各種内科疾患の病態に関する知識を修得する。 ・各種内科疾患の治療法の概要について知識を修得する。									
テキスト 参考書等	テキスト:標準 理学療法学・作業療法学 内科学（医学書院）、授業スライドの配布 参考書:病気が見える 循環器(メディックメディア)									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	症候学	・各種症候について簡潔に説明できる。 ・症候から考えられる疾患を列挙できる。
2	循環器疾患①	・循環器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・虚血性心疾患、弁膜症について簡潔に説明できる。 ・運動負荷試験について簡潔に説明できる。
3	循環器疾患②	・循環器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・高血圧、不整脈、心不全、血管疾患について簡潔に説明できる。 ・心臓リハビリテーションについて簡潔に説明できる。
4	呼吸器疾患①	・呼吸器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・換気障害、呼吸器感染症について簡潔に説明できる。 ・呼吸機能検査について簡潔に説明できる。
5	呼吸器疾患②	・呼吸器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・気管支喘息、COPD、間質性肺炎、肺がん等について簡潔に説明できる。 ・呼吸リハビリテーションについて簡潔に説明できる。
6	消化管疾患	・消化器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・上部消化管疾患について簡潔に説明できる。 ・下部消化管疾患について簡潔に説明できる。
7	肝胆膵疾患	・肝胆膵の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・肝疾患について簡潔に説明できる。 ・胆嚢、胆管、膵臓の疾患について簡潔に説明できる。
8	血液・造血器疾患	・血液・造血器の解剖、生理を簡潔に説明できる。 ・貧血について簡潔に説明できる。 ・血液疾患について簡潔に説明できる。
9	代謝性疾患	・代謝の機構を簡潔に説明できる。 ・糖尿病、メタボリックシンドロームについて簡潔に説明できる。 ・その他代謝性疾患について簡潔に説明できる。
10	内分泌疾患	・内分泌の機構を簡潔に説明できる。 ・内分泌疾患について簡潔に説明できる。
11	腎・泌尿器疾患、アレルギー疾患	・腎・泌尿器の解剖、生理、アレルギーの機構を簡潔に説明できる。 ・腎・泌尿器疾患について簡潔に説明できる。 ・アレルギー疾患について簡潔に説明できる。
12	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	・免疫の機構を簡潔に説明できる。 ・膠原病について簡潔に説明できる。 ・免疫不全症について簡潔に説明できる。
13	感染症	・感染の機構を簡潔に説明できる。 ・感染症について簡潔に説明できる。 ・感染予防について簡潔に説明できる。
14	内科学演習①	・各種内科疾患の病態に関する知識を修得する。 ・各種内科疾患の治療法の概要について知識を修得する。
15	内科学演習②	・各種内科疾患の病態に関する知識を修得する。 ・各種内科疾患の治療法の概要について知識を修得する。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		内科医として10年間、外来、検査を担当。		

科目名	神経障害学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室	
授業概要	神経内科学について基礎的な事項を学び、理学療法・作業療法を行う上で必要な基礎知識を学ぶ。									
一般目標	・各種神経内科疾患の病態に関する知識を修得する。 ・各種神経内科疾患の治療法の概要について知識を修得する。									
テキスト 参考書等	標準理学療法・作業療法学 神経内科学（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	神経学的診断法①	・脳神経とそれに由来する機能を説明することができる。 ・各種神経学的診断法を説明できる。
2	神経学的診断法②	・運動障害とそれに対応した評価法を説明することができる。
3	神経症候学①	・高次脳機能障害(失語・失認・失行・高次運動障害・記憶障害)を説明することができる。
4	神経症候学②	・意識障害、運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、不随意運動、運動失調、感覚障害を説明することができる。
5	脳血管障害	・脳梗塞について説明することができる。 ・脳梗塞の治療法、病棟管理、予防について説明できる。 ・脳梗塞の合併症について説明できる。
6	脳腫瘍、中枢神経系の外傷	・脳腫瘍、頭部外傷について説明することができる。
7	神経感染症	・神経系の感染性疾患(髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、クロイツフェルト・ヤコブ病など)について説明できる。
8	脱髄疾患、運動ニューロン疾患	・脱髄疾患の定義、病名を説明することができる。 ・多発性硬化症の症状と経過について説明することができる。 ・多発性硬化症の治療について説明することができる。
9	認知症	・アルツハイマー病について説明することができる。 ・脳血管性認知症について説明することができる。 ・前頭側頭型認知症について説明することができる。 ・レビー小体型認知症などについて説明することができる。
10	錐体外路疾患、脊髄小脳変性症	・錐体外路に由来する運動麻痺、運動失調、不随意運動について説明できる。 ・パーキンソン病、パーキンソニズムについて説明できる。 ・パーキンソニズムを呈する各種疾患について説明できる。
11	脊髄・脊椎疾患	・脊椎と脊髄の解剖について説明できる。 ・脊髄の症候を説明できる。 ・代表的な脊椎/脊髄疾患を説明できる。
12	末梢神経障害	・末梢神経の解剖と機能を説明できる。 ・末梢神経障害による症状を説明できる。 ・代表的な末梢神経疾患を説明できる。
13	神経筋接合部・筋疾患	・神経筋接合部について説明できる。 ・重症筋無力症について説明できる。 ・Lambert-Eaton症候群について説明できる。
14	中毒、栄養欠乏、内科疾患に伴う神経疾患	・重金属中毒、有機溶剤中毒、一酸化炭素農薬中毒について説明できる。 ・栄養欠乏に伴う神経疾患について説明できる。 ・糖尿病、甲状腺機能亢進症などの内科疾患に関連する代謝性疾患について説明できる。
15	先天異常、代謝性疾患	・脳性麻痺について説明できる。 ・各種先天異常について説明できる。 ・各種代謝障害について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	実務経験紹介		脳神経内科医として臨床実務を行う。		

科目名	精神医学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT・OT2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室	
授業概要	実習では様々な精神症状を呈した患者への介入が多くある。患者の言動を理解する際には、表出される症状を理解することから始まる。本授業では、実践で患者を理解するためと、国家試験合格のための基礎的な知識の習得を学ぶ。									
一般目標	作業療法士・理学療法士にとって重要な精神医学的知識についての基本的な知識を習得する。									
テキスト 参考書等	専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版(中山書店)									

到達目標		
知識(認知領域) ・精神障害の歴史、定義等を説明できる。・精神科における治療法を説明できる。・各疾患の病態を説明できる。 ・講義内レポート作成後のフィードバックをメモして理解を深めることができる。		
技術(精神運動領域) ・国家試験問題を解くことができる。		
態度(情意領域) ・実習等で必要な関わり方の留意点を説明できる。 ・調べ学習を通して積極的に授業へ参加することができ、レポート提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、精神医学とは	授業内容に関する知識を説明できる。
2	統合失調症①(症状)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
3	統合失調症②(行動特性)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
4	気分障害(躁病、うつ病)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
5	神経症とストレス関連障害	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
6	パーソナリティ障害、心身症(摂食障害)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
7	外因性精神障害(認知症)、老年期精神障害	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
8	物質依存症(アルコール依存症、薬物依存)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
9	発達障害(児童・青年期の精神障害)、睡眠障害	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
10	知的障害、てんかん	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
11	精神科リハビリテーション、社会療法と生活療法	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
12	精神科医療、精神医学とは何か	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
13	薬物療法と身体的治療法(効果、副作用、生活上での影響)	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
14	精神(心理)療法	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。
15	まとめと試験対策	授業内容に関する知識を説明でき、国家試験問題を解答、解説をすることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○		○	30	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	山口大学医学部精神科神経科勤務。精神科病院にて13年間勤務。	

科目名	臨床心理学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室	
授業概要	医療や福祉の現場では、身体・心の健康と共に関わりの健康も考えていく必要がある。本講義では、こころの健康を援助するための臨床心理学の基礎的な考え方と実践方法、また疾患や障害の特性を学び、理学療法、作業療法に役立てる。									
一般目標	・臨床心理学の4領域に関する知識を修得する。 ・臨床心理学における心の援助方法、援助者の態度について知識を修得する。									
テキスト 参考書等	『改訂版 臨床心理学概説』 馬場禮子著(放送大学教育振興会) 適宜、資料を配布する。									

到達目標		
知識(認知領域)		
・心理検査、心理療法、及び各精神疾患への心理的援助について説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・なし		
態度(情意領域)		
・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	・臨床心理学の実践の場を説明できる
2	臨床心理学とは	・臨床心理学の4領域について説明できる ・臨床心理学の4領域の関連性について説明できる
3	こころの発達と臨床心理	・各発達段階の発達課題(危機)について説明できる
4	心理アセスメント	・心理アセスメントの各方法について簡潔に説明できる
5	心理検査	・心理検査の種類と特徴、検査名を簡潔に説明できる
6	精神疾患について ～統合失調症～	・陽性症状、陰性症状について説明できる ・援助方法について(社会資源も含む)説明できる
7	双極性とうつ病	・双極性障害とうつ病の違いを説明できる ・病前性格を列挙できる
8	パニック症、強迫症など	・授業で取り上げた疾患について簡潔に説明できる ・授業で取り上げた疾患における心理状態、及び援助方法について説明できる
9	パーソナリティ症	・パーソナリティ障害の分類と疾患名を列挙できる ・授業で取り上げたパーソナリティ障害における心理状態、及び援助方法について説明できる
10	パーソナリティ症	・授業で取り上げたパーソナリティ障害における心理状態、及び援助方法について説明できる
11	発達障害	・自閉スペクトラム症の障害の3つ組について説明できる ・自閉スペクトラム症における心理的背景の理解、及び援助する際の工夫について説明できる
12	心理療法とは	・面接の枠組み(面接の構造化)について説明できる ・転移、逆転移について説明できる ・各心理療法の名称、創始者名、特徴について簡潔に説明できる
13	精神分析療法	・局所論、構造論について説明できる ・自我の防衛機制をいくつか説明できる ・集合的無意識について説明できる
14	クライエント中心療法	・クライエント変容の6条件を説明できる ・共感的な理解を示す話の聴きかた、態度を説明できる
15	認知行動療法	・認知行動療法の基本モデル、階層的認知モデルについて説明できる ・認知療法、行動療法の技法をいくつか列挙できる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習	○			20	○内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	実務経験紹介		臨床心理士として、児童福祉施設、高等教育機関等にて非常勤勤務中。		

科目名	地域リハビリテーション論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	超高齢社会を迎えた現在、作業療法士、理学療法士の地域での活躍が一層期待されている。地域リハビリテーションのチームで働くための基礎知識や考え方について学習する。								
一般目標	地域で生活すると人々の特徴と基本的な介護保険制度に関する知識を習得し、地域リハビリテーションの概要と作業療法士、理学療法士の役割について考える力を身につける。								
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)								

到達目標		
知識(認知領域) ①地域リハビリテーションの概要と作業療法士、理学療法士の役割を説明できる。②介護保険制度の概要やサービスを理解し、説明できる。 ③介護予防における地域包括ケアシステムの概要を説明できる。④介護予防で用いる評価や測定の目的を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。演習やフィールドワークに対して真摯に取り組み、グループワーク時に調和を乱すことなく能動的に参加できる。地域住民に対して丁寧に対応できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 地域リハビリテーションとは① 地域リハを学ぶために考えたいこと	・自らのICFを図示することができる。 ・これまで学んだ教科について、ICF分類を実施できる。
2	地域リハビリテーションとは② 症例紹介・概念	・地域リハビリテーションの概念を述べることができる。
3	介護保険制度①	・介護保険の理念と基本的な仕組みについて説明できる。
4	介護保険制度②	・介護保険サービスを列挙し、それぞれの概要を説明できる。 ・介護保険下でのリハビリテーションサービスについて説明できる。
5	介護保険制度③	・ケアプランを読むことができる。
6	介護保険制度④	・ケアプランを基にリハビリテーションサービスを提案することができる。
7	地域包括ケアシステムとは	・地域包括ケアシステムの概要について説明できる。
8	介護予防①	・介護予防の概念と現在の取り組みを説明できる。
9	介護予防②	・介護予防を目的とした地域で行う運動や評価を実施できる。
10	介護予防③	・健康アンバサダー講座を通して行政の取り組みを説明できる。
11	介護予防④	・健康アンバサダーとして地域住民に健康知識を手郷することができる。
12	社会資源①	・居住地域のフォーマルサービスを列挙することができる。
13	社会資源②	・居住地域のインフォーマルサービスを列挙することができる。
14	症例検討	・症例検討を通し、地域で暮らす人の目標設定、リハビリテーションサービスを提案できる
15	まとめ	・地域での作業療法士、理学療法士の役割について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			30	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○		○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習	○		○	評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として介護老人保健施設で9年勤務、市町の介護予防事業に携わっている	